

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）
分担研究報告書

非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究
～地域連携・病院経営における「コーディネーター」の重要性について～

研究分担者 斐 英洙 ハイズ株式会社 代表取締役社長

研究要旨

【背景】地域連携や多職種連携の推進のため、多くの地域や医療機関では様々なアプローチをとりつつ、最適解を模索している。ただ、専門特化が先鋭化し過ぎるとタコつぼ型組織となる可能性があり、生み出された職種間の壁がシームレスな医療を阻害しかねない。よって、多職種連携の作用を極大化し、副作用を極小化するためには、他職種や患者を円滑かつシームレスにつなぐための“コーディネーター”の存在は不可欠と考えられる。

【方法】「コーディネーター」に必要な資質や役割を中心に、筆者の医療機関経営支援の経験や文献等の考察を基に検討する。

【結果】「コーディネーター」には3つのCが必要と考えられる。①Collaboration（協力）：利害関係者のいずれにも協力的である基本姿勢、②Counseling（相談）：患者から相談される親しみやすさと寄り添い姿勢とプロフェッショナルに相談する勇気、③Communication（伝達）：関係者間の翻訳家としての機能、分かりやすさ等。

【結語】多職種連携をさらに推進するためにも、医療におけるチーム間・組織間のコーディネーターに望まれる職能条件を明確にし、各種専門職がコーディネーターの活用方法を理解することがますます必要とされている。

A. 研究目的

現代の医療はそれぞれのプロフェッショナルが矜持と責任をもって協働することで患者への提供価値を創り出す仕組みへと発展してきている。ただ、専門特化が先鋭化し過ぎるとタコつぼ型組織となる可能性があり、生み出された職種間の壁がシームレスな医療を阻害しかねない。よって、多職種連携の作用を極大化し、副作用を極小化するためには、他職種や患者を円滑かつシームレスにつなぐための“コーディネーター”の存在は不可欠と考えられる。その視点から、肝炎医療コーディネーターは職種間連携の

コア職種であり、肝炎治療に関する、限られた医療資源を効率的かつ効果的に活用するための潤滑油的な役割が求められている。コーディネーター機能の発揮には、マネジメント理論および組織内力学の視点からの分析が効果的である可能性があり、これら視点に基づいて肝炎コーディネーターのあり方について研究する。

B. 研究方法

筆者の医療機関経営支援の経験や文献等の考察を中心に検討する。また、骨粗鬆症マネージャー、FLS（骨折リエゾンサービス／

Fracture Liaison Service) 等の他分野のコーディネーターの事例からも検討する。

C. 研究結果

まず、チーム医療推進、医療経営、地域運営等においてコーディネーターが必要な3つの理由を挙げる。

1. 経営視点

働き方改革や経営環境の悪化で、限られた医療資源、特に医師に得意分野に集中してもらう必要があり、他職種との円滑なタスクシフティング・シェアが必須となる。

2. チーム視点

スペシャリストが集まるチーム医療の発展のため、メンバー間の円滑なコミュニケーションが重要であり、チーム医療の円滑化には調整役が必須となる。

3. 患者視点

医療職－患者間の情報格差の解消、相互理解、共創価値の向上のために、橋渡し役が重要である。

医療機関の内外には、利害関係者が多く存在し、それらがスムーズかつ効率的に目標に向かって進むためには、各利害関係者間の「潤滑油」的な役割は必須であり、「調整のプロ」としてのコーディネーターの存在が多くの医療機関や地域で求められている。また、多くの疾患領域でもコーディネーター業務は必要とされており、好事例としてFLS（骨折リエゾンサービス、Fracture Liaison Service）があげられる。現在、国内における骨粗鬆症の推定患者数は約1300万人であり、治療を受けているのは約200万人と言われている。ただし、大腿骨近位部骨折や椎体骨折の治療率はわずか20%程度、骨粗鬆症の薬物治療では、治療開始から1年で45.2%の患者が処方どおりに服薬できておらず、5年以内に52.1%が脱落する結果がある。つまり、骨粗鬆症治療の導入後

も、地域に戻る過程の中で、治療は中断され再骨折リスクが高い状態で地域内に放置されている患者が多いと推定される。また、脆弱性骨折は骨の強度が低下し、わずかな外力で生じる骨折であるため、高齢者の生活機能を一瞬で奪い、生命予後の悪化をもたらす重大な疾患と言える。よって、これら疾患の医療の質を向上し、患者主体の医療を成し遂げるためにFLSが注目されている。FLSは、1990年代後半に英国・欧州で開始され、その目的は二次骨折の防止で、多くの科学研究をベースに、高い有効性と優れた費用対効果が得られ世界規模で推進されている。そのキーとなるのが、骨粗鬆症マネージャーや骨粗鬆症サポーター等のコーディネーターである。これらのコーディネーターは、「見つけ出す」「骨折リスクの評価を行う」「適切な介入を行う」の3つのステップで活動し、骨折予防に大きく貢献しているといわれている。

これらの事例研究と筆者の経営支援の経営から、「コーディネーター」の能力には3つのCが必要と考えられる。

- ① Collaboration（協力）：利害関係者のいづれにも協力的である基本姿勢
- ② Counseling（相談）：患者から相談される親しみやすさと寄り添い姿勢とプロフェッショナルに相談する勇氣
- ③ Communication（伝達）：関係者間の翻訳家としての機能、分かりやすさ等。

上記能力は骨折リエゾンサービスのみならず、肝炎医療コーディネーターや他疾患・他領域でのコーディネーターにも当てはまる能力であり、コーディネーター業務の推進のためには優先して向上させる必要がある能力と考えられる。

D. 成果

各種疾患でのチーム医療を推進するためには、各専門職種の壁を乗り越え、チームを

円滑に機能させるためのコーディネーターが必要であり、その円滑な機能発揮には3つのCを中心とした能力が重要と考えられた。

E. 結論

肝炎医療コーディネーターは肝炎治療のチーム医療には不可欠の存在となりつつあり、医療連携のコア業種とも言える。そのコーディネーターの役割を十分に発揮するためにはコーディネーター自身の能力・技術の向上も重要である。多職種連携をさらに推進するためにも、医療におけるチーム間・組織間のコーディネーターに望まれる職能条件を明確にし、各種専門職がコーディネーターの能力や技術をさらに理解し、コーディネーター自身もその技能を磨くことがますます重要となる。

参考文献

1. 【多職種連携&タスクシフティング〜“働き方改革”の連立方程式〜】(Part 1) 多職種連携&タスクシフティング成功の秘訣, 裴 英洙, 新井 良和, 大矢 敦, 保険診療 (0385-8588)75 巻 11 号 Page3-10(2020.11)
2. Hagino H, et al., The risk of a second hip fracture in patients after their first hip fracture. *Calcif Tissue Int* 90: 14-21, 2012
3. Solomon DH, et al., Compliance with osteoporosis medications. *Arch Intern Med* 165: 2414-2419, 2005
4. Sakamoto K, Nakamura T, Hagino H, et al. Report on the Japanese Orthopaedic Association's 3-year project observing hip fractures at fixed-point hospitals. *J Orthop Sci.* 2006; 11: 127-34
5. 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版(骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会編集) (http://www.josteo.com/ja/guideline/doc/15_1.pdf)
6. 医界展望 2020 医師の働き方改革の現状と展望 医師の自己犠牲で維持されてきた医療提供体制の再構築を始める年, 裴 英洙, *Clinic Magazine*(0389-7451)47 巻 1 号 Page24-25(2020.01)
7. 【看護管理者がリードする 3 ステップで成果を上げる! チームビルディング(超入門)】(第 5 章)(ステップ 3) チームをさらに活性化させるための 8 の応用テクニック 離職マネジメント 必要以上の負担をかけず退職への道筋をつける, 裴 英洙, *Nursing BUSINESS*(1881-5766)2016 春季増刊 Page116-118(2016.03)
8. 【看護管理者がリードする 3 ステップで成果を上げる! チームビルディング(超入門)】(第 5 章)(ステップ 3) チームをさらに活性化させるための 8 の応用テクニック スクラップ&ビルディング チーム数をコントロールし、組織の肥大化を防ぐ, 裴 英洙, *Nursing BUSINESS*(1881-5766)2016 春季増刊 Page90-92(2016.03)

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし